



国際協力の重要性

渡會 愛香

インドネシアは開発途上国。だから貧困、教育・医療格差、環境問題、差別、紛争などがありふれていて、日本よりいろんな観点で遅れていると思っていた。だが、空港を出て初めて見たジャカルタの景色はまるで違っていた。大きなビルが立ち並び、多くの人で賑わう、活気づいた街だった。ここでは、ゴミ問題や交通渋滞など日本でも取り上げられている問題があって、多くの人が協力している。MRTやJICAインドネシア事務所、リサイクルセンターでの研修を通して肌で感じたことだ。何より、活動している方々は皆笑顔で出迎えてくれて、働いている様子も楽しそうだったことが、胸に残っている。私は生き方そのものが素敵だと心から感じた。日本でも、研修で出会った方々のような働き方ができたらいいいとも思ったし、技術の面でも、日本とインドネシア両国にとって学ぶべき点が多かった。

地方の問題にも目を反らしてはいけない。ホームビジットを通じて体感したことである。一般家庭は、平屋が主流であり、子どもたちは裸足で路地を出歩いていた。家族の人数と割に合わない部屋の広さが日本とはまるで違っていた。都市だけ見ていてはわからない、一般市民の生活を体験でき、改めて開発途上国という言葉を考えるきっかけになった。

全体を通して、国際協力の重要性を重く感じた一週間だった。将来、世界の課題と向き合うときが来たら、またこの国を訪れたい。